



平成25年度の生徒会スローガンが早々と決まりました。生徒会の“やる気”の表れです。始業式の後、生徒会役員の手で発表されました（上の写真はその時のものです）。早速、校舎にも横断幕を掲げました。

OVERCOMEとは、「打ち勝つ」「制覇する」「(困難を)克服する」などの意味があります。MYSELFは、「自分自身」です。何事にも全力で取り組み、自分に打ち勝つことで、明るい未来が広がっていくはずで、「過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる」という言葉ともつながります。

また、昨日の入学式でも、同じような意味のメッセージがたくさんありました。新入生への呼びかけでしたが、2・3年生にも、そして大人にも通じるメッセージでした。

平成25年度、全校生徒350名と教職員40名で、輝く未来を創っていきます。

◆ 入学に際し、「越える力」について話をします。「越える力」とは、「自分自身に限界を作らない」ということです。よく「おれ馬鹿やし…」「難しいし…」「めんどくさいし…」「無理や！」などと言って、自分の力を信じることができずに、自己否定する人がいます。

今、会社を持つ起業家の間で問題になっているのが、若者の「越える力のなさ」です。仕事を任せても、プロジェクトの企画をさせても、最後までやり切ることができず、立ち止まってしまい、最悪の場合は会社さえ辞めてしまうことがよくあるそうです。力、すなわち可能性という面では、全員同じ、平等です。要は、自分を信じて、壁を乗り越える努力に立ち向かえることができるかどうかです。

国民栄誉賞を受賞することになった巨人軍の長嶋茂雄終身名誉監督は、かつて、同じく受賞することになった元ニューヨークヤンキースの松井秀喜選手を「努力の天才」と言いました。ただの「天才」ではなく、「努力の天才」と呼んだのです。ぜひ、みなさんも「努力の天才」であってほしいと思います。

これから、勉強や部活動、学校行事などで、「限界と思える場面」は必ず訪れます。そこで逃げずに、正面から解決に向けて取り組み、「越える力」を発揮し、実力をつけ、自身の成長を確かめられる一人一人であり、集団であってほしいと強く思います。 <校長式辞>

◆ この1年間は、初めて経験することがたくさんあります。なかなかうまくいかないことがあるかもしれませんが、「失敗しないと成功できない。かがまなければ跳ぶことはできない」。ノーベル医学生理学賞を受賞した山中伸弥教授の言葉です。たとえうまくいかないことがあったとしても、それは次にやってくる成功のためのステップなのです。目標に向けて根気強く続けることで、道は必ず開けてきます。壁に突き当たることがあっても、自分を信じて、決してあきらめずに挑戦し続けてください。 <教育委員会挨拶>

## 発信！67年目の「初心(所信)」

本通信のタイトルの所に、チャッチフレーズらしきものが書かれています。2年前から登場したもので、“浦島の里から「がんばろう！日本」発信”（H23），“発信！それだけじゃない詫間中”（H24）ときました。そして今年はコレです。今春の選抜高校野球の選手宣誓が印象に残っているからです。

85回を数えるこの選抜大会は、全国の多くの人たちに夢や感動を、時には明日への生きる力を与えてくれました。私たちは、あこがれの甲子園の舞台に立てることを、支えてくれたすべての人たちに感謝し、先人たちが積み上げてきた85回の歴史に新たな1ページを加えます。たくさんの人の絆を支えられてつかんだ甲子園の舞台で、最後まであきらめず全力でプレーすることにより、東北を始め全国の困難と試練に立ち向かっている人たちに、大きな希望と勇気の花を咲かせることを誓います。（鳴門高校：河野祐斗）

本校は、昭和22年に開校され、今年創立67年目を迎えます。先人たちが積み上げてきた歴史の重みをかみしめながら、今一度「初心」に戻って新たな歴史を創っていきたいという所信の表れです。そして何より、この宣誓文が生徒会スローガンと重なります。“全力プレー”で、大きな希望と勇気を発信します！